

南アフリカの落葉果実事情(リンゴ、ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2023年11月3日

これは米国農務省海外農業局プレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「落葉果実年次報告書」のリンゴ及びブドウの項の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

<リンゴ(生鮮)>

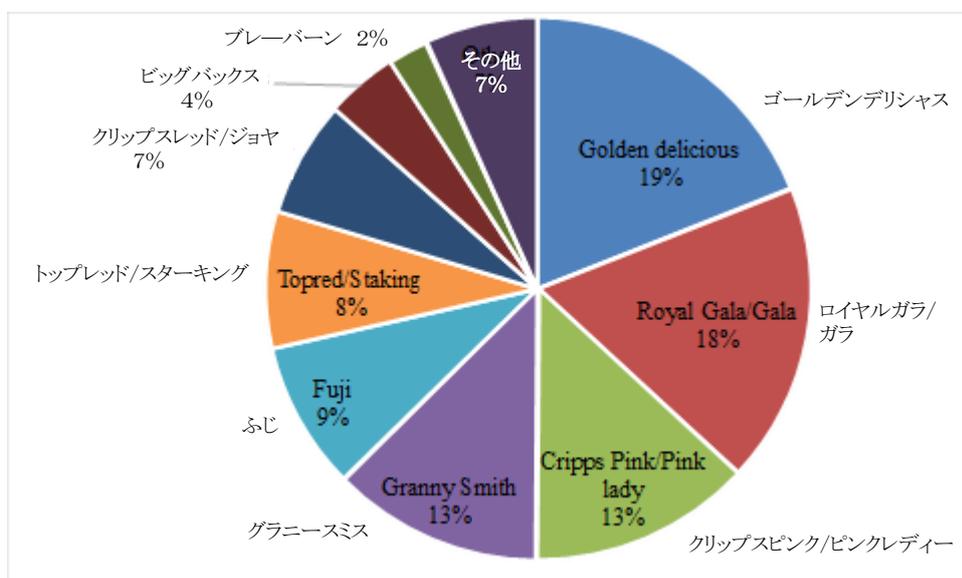
西ケープ州は南アフリカ最大のリンゴ生産地であり、東ケープ州と合わせてリンゴ生産量の95%以上を占めている(図1)。小さいながらも成長している産地は、フリーステート州、ムブマランガ州及びリンポポ州を中心に、より北に位置している。南アフリカ産リンゴの収穫は通常1月末から6月までで、2月から4月までの間に収穫のピークがある。CA貯蔵により、国内市場と国際市場の両方に一年を通じて出荷することができる。輸出市場で広く販売されるクラス1の果実は通常、約9か月間CA貯蔵され、その後、短い期間(3か月)通常の大気(RA)の貯蔵庫で保管される。

図1 南アフリカの落葉果樹産地の地図



出典: Hortgro

図2 リンゴの品種別栽培面積シェア



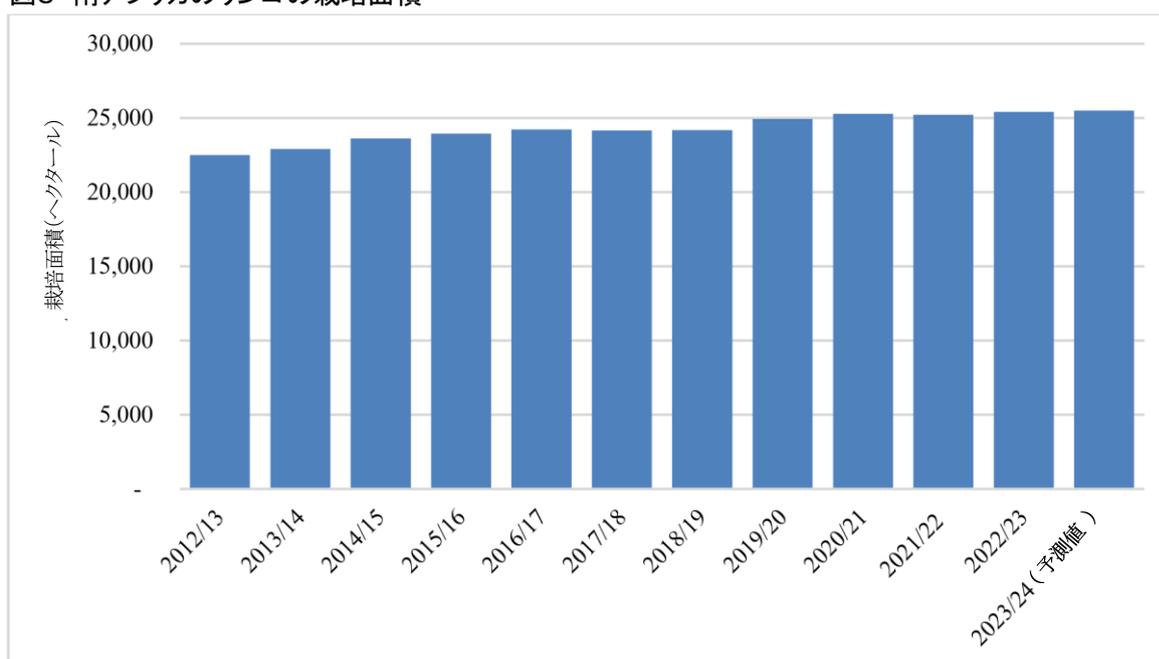
出典:
Hortgro 果樹センサス
2022年

南アフリカでは6つの品種がリンゴ生産を支配し、栽培面積の約80%を占めている。選択される品種は、主に南アフリカの輸出市場における消費者の好みと需要によって決定される(図2)。しかし、過去5年間の植栽は、収量を増やしたいという生産者の願望によって推進されてきた。

面積

近年、南アフリカのリンゴ栽培面積は、投入コストの上昇、国内市場の低迷、限られた加工能力、限られた冷蔵施設、ケープタウン港での物流上の課題、及び不安定な電力供給によって悪影響を受けている。これらの課題により、生産者は高い投入コストを相殺するための垂直統合と、信頼性の高い電力供給源と水源への投資に注力しているようで、栽培面積の伸びは平均1%で停滞している。このため、新植は限定的で、2023/24年度の南アフリカのリンゴ栽培面積は2万5,500ヘクタール、果樹本数は約3,680万本で横ばいと推定される(図3)。

図3 南アフリカのリンゴの栽培面積



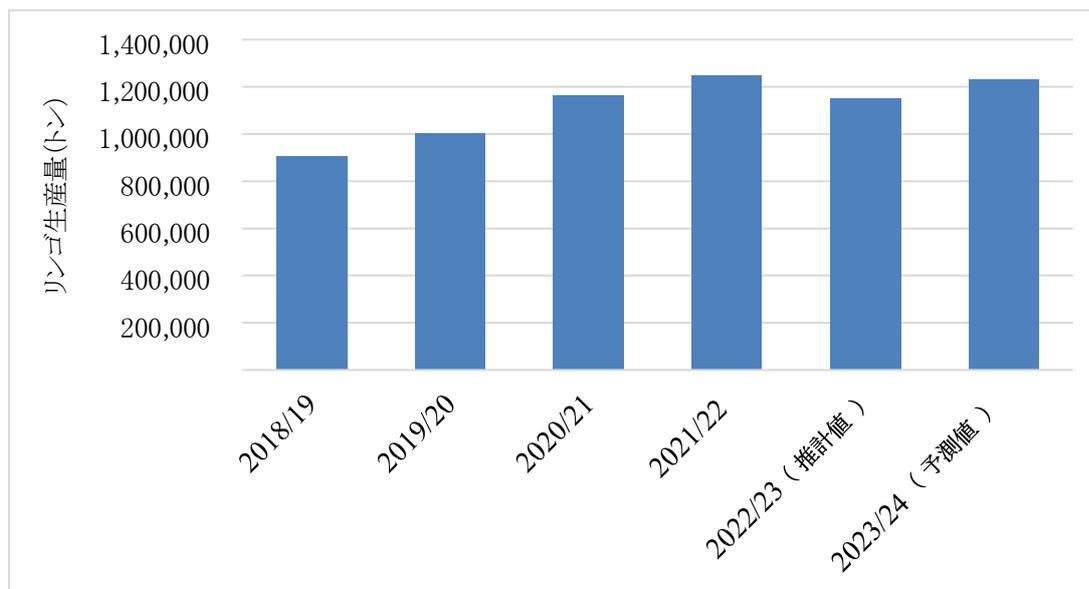
出典: Hortgro

生産

当事務所は、南アフリカの2023/24年度のリンゴ生産量は、栽培面積の微増、平均的な収量、及び平年並みの気象条件を前提に、7%増の123万トンと予測する。西ケープ州のリンゴ産地、具体的にはセレス地域とラングクルーフ地域で、2022年11月に降雹の影響を受けた。その結果、果実に物理的なダメージを与え、リンゴの生産量が減少した。この地域の生産者は、加工用に仕向けられるリンゴの割合が平均的には20~25%であるところ、2022/23年度には55~60%に増加したと報告している。当事務所への情報提供者によると、2022/23年度には、通常は生鮮消費向けのリンゴとナシ約10万トンが、加工向けに転用されたとのことである。その結果、多くの搾汁工場はシーズン中フルに稼働し、提携生産者以外には門戸を閉ざしている。これらのことから、2022/23年度のリンゴ生産量は、2021/22年度の125万トンから8%減の115万トンと推定される。品質の低い果実の明確な出荷先がないため、当事務所は2022/23年度には収穫されない面積がわずかに増加し、その結果生産量が減少すると推定する。

2021/22年度については、南アフリカは過去最高の125万トンのリンゴを収穫した。2021年の冬は、雨に恵まれ、また十分な低温期間があったため、生産者は十分な灌漑水と果実の良好な生育を確保することができた。シーズンを通して天候に恵まれ、果実の生産量と品質が確保された。さらに、セクター拡大の段階で植えられた若い果樹園が成園化し、生産量の増加に貢献した。

図4 南アフリカのリンゴの生産量



出典: Hortgro 及び当事務所推計

輸出

当事務所は、2023/24年度のリンゴ輸出量を、輸出可能な供給量の増加により12%増の65万トンと予測する。2022/23年度の輸出量は、2021/22年度の62万5,103トンから58万トンへ7%減少すると推定される。これは、主要産地で降雹被害により輸出品質のリンゴの生産量の減少したことによるものである。2021/22年度には記録的な収穫量に伴い、リンゴの輸出量は6%増の62万5,103トンとなった。成長率はもっと高くなった可能性もあるが、2021/22年度の南アフリカのリンゴ輸出は、輸送コストの上昇、国内の港湾の問題、ロシアとウクライナの紛争が貿易パターンに与えた影響、及び英国内のインフレ圧力により圧迫された。

アフリカ諸国への輸出は、需要の高まり(特にピンクレディー、ガラ、ゴールドデンデリシヤスの各品種)、市場での競争の少なさ、及び最適とは言えない取り扱いに耐えられるリンゴの特性によって大きく推進されている。しかし、アフリカ諸国への輸出は、貿易コストの高さと物流上の課題によって制限されている。南アフリカは欧州連合(EU)と英国の両方と自由貿易協定を結んでおり、これらの市場への免税輸出の恩恵を受けている。

アフリカと欧州は伝統的に堅固な市場だが、輸出の成長は主に東方への出荷の増加が牽引すると予想される。南アフリカ産リンゴのインドへの輸出は、インド政府が南アフリカ産のリンゴとナシの輸出に関して輸送中の低温処理を承認したことに伴い、2021/22年度に約67%増加した。2023/24年度のインド向け輸出は、競合国への関税引き上げによって生み出されたチャンスを南アフリカの輸出業者が捉えることで、さらに増加すると予想される。

表1 南アフリカの生鮮リンゴの輸出

輸出先国	単位	2021/22	1月～8月		増減率
			2021/22	2022/23	
英国	トン	77,948	73,176	63,627	-13%
ナイジェリア	トン	56,937	34,697	28,518	-18%
バングラデシュ	トン	38,008	35,803	39,449	10%
マレーシア	トン	37,413	26,458	26,432	0%
アラブ首長国連邦	トン	34,791	32,236	35,258	9%
ロシア	トン	26,463	26,218	11,863	-55%
ベトナム	トン	23,783	14,279	17,448	22%
セネガル	トン	22,772	14,328	13,399	-6%
オランダ	トン	21,786	20,817	21,377	3%
ケニア	トン	17,558	11,753	11,147	-5%
インド	トン	17,470	17,194	22,502	31%
ジンバブエ	トン	16,095	9,868	9,237	-6%
ザンビア	トン	15,508	10,013	10,168	2%
ボツワナ	トン	14,172	9,314	9,094	-2%
中国	トン	13,223	11,835	15,161	28%
ガーナ	トン	12,667	8,710	7,139	-18%
ドイツ	トン	11,987	11,835	6,309	-47%
カメルーン	トン	10,784	6,937	6,168	-11%
ナミビア	トン	10,678	6,188	7,941	28%
その他	トン	145,061	103,694	112,963	9%
合計	トン	625,103	485,353	475,200	-2%

出典: Trade Data Monitor, LLC

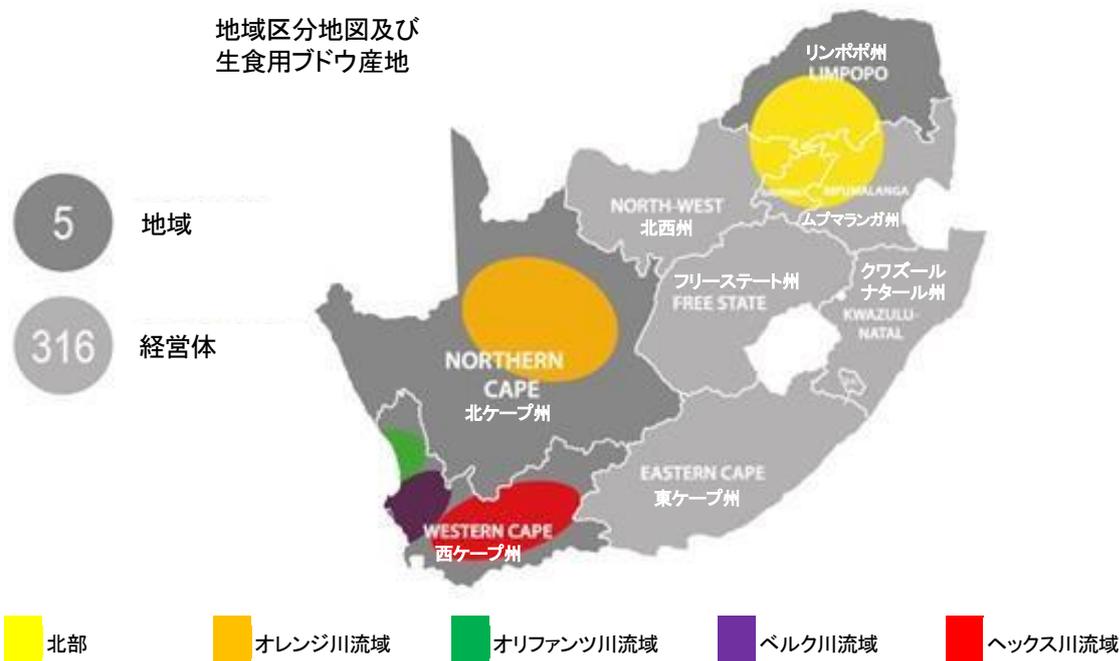
表3 南アフリカの生鮮リンゴの生産需給統計

リンゴ(生鮮)	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2022年1月		2023年1月		2024年1月	
販売年度の始まり	2022年1月		2023年1月		2024年1月	
南アフリカ共和国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	24,956	25,209	24,950	25,400	0	25,500
収穫面積(ヘクタール)	22,850	22,850	22,300	22,300	0	23,500
結果樹本数(千本)	33,637	33,637	33,700	33,700	0	33,800
未結果樹本数(千本)	3,100	3,100	2,700	3,000	0	3,000
果樹本数合計(千本)	36,737	36,737	36,400	36,700	0	36,800
商業的生産量(トン)	1,201,100	1,250,000	1,150,000	1,150,000	0	1,230,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	1,201,100	1,250,000	1,150,000	1,150,000	0	1,230,000
輸入量(トン)	25	25	25	25	0	23
総供給量(トン)	1,201,125	1,250,025	1,150,025	1,150,025	0	1,230,023
国内消費量(トン)	576,025	624,922	615,025	570,025	0	580,023
輸出量(トン)	625,100	625,103	535,000	580,000	0	650,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	1,201,125	1,250,025	1,150,025	1,150,025	0	1,230,023

<生食用ブドウ(生鮮)>

南アフリカの生食用ブドウの主な産地は、西ケープ州のヘックス川流域(32%)、ベルク川流域(23%)、オリファンツ川流域(6%)、北ケープ州のオレンジ川流域(29%)、北東部のリンポポ州(10%)等である(図9)。

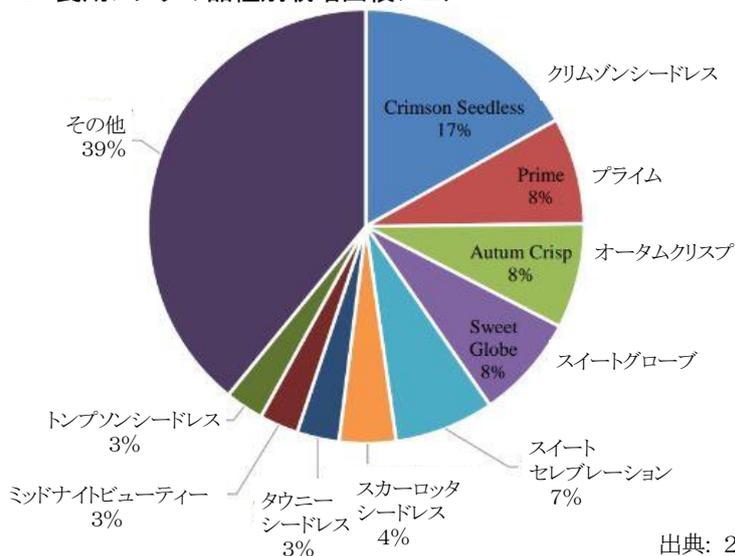
図9 南アフリカの生食用ブドウ産地



出典: SATGI

南アフリカ生食用ブドウ協会(SATGI)の果樹センサス(2023年)によると、生食用ブドウの栽培面積のほとんどが樹齢3~9年(53%)で、次いで樹齢10~15年(20%)、2年未満(15%)となっている。南アフリカの生食用ブドウの品種構成は、過去10年で大きく変化した。消費者が種無しブドウを好むことから、種無しの生食用ブドウ品種の生産が伸びる一方で、種有り品種は減少している。現在、ブドウ園の8%未満が種有りの生食用ブドウである。新植に当たっては、オータムクリスピ、スイートセレブレーション、スイートグローブの3つの品種が非常に好まれている。

図10 食用ブドウの品種別栽培面積シェア



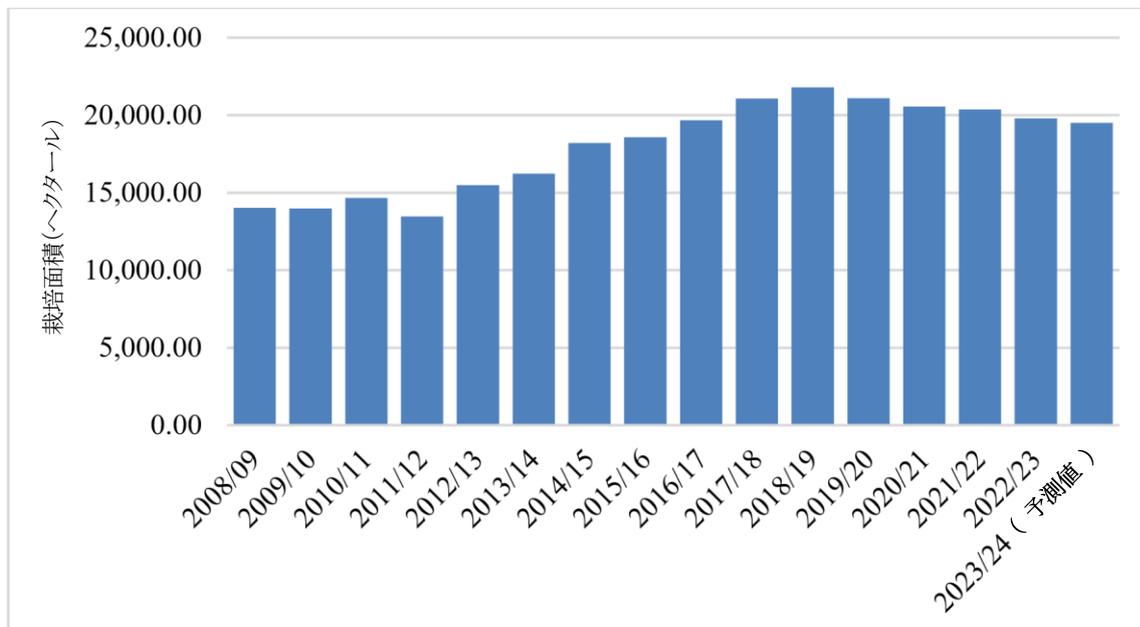
出典: 2023年SATGI果樹センサス

栽培面積

当事務所は、南アフリカの2023/24年度の生食用ブドウ栽培面積を、2022/23年度の1万9,788ヘクタールと比較して微減の1万9,500ヘクタールと予測する。2012年から2019年にかけて主に輸出収入の増加に牽引されて生食用ブドウの栽培面積が急激に増加した後(図11)、過去5シーズンの栽培面積は平均2万726ヘクタールで停滞している。農業投入資材費の高騰、非効率な港湾運営、道路網の老朽化、他の南半球諸国との競争の激化、電力供給の頻繁な切断(詳細については、当事務所のGAINレポート「[Load Shedding and Economic Strain on the Food Supply](#)」を参照)により、南アフリカの生食用ブドウ生産者の収益が低下し、この業界での新規投資が制約されている。

生産者にとっては2022/23年度に、特に電気、メンテナンス及び燃料、肥料の投入コストが増加した。業界団体によると、年度2022/23年度の生産者にとっての最大の直接費は人件費であり、直接費全体のほぼ55%を占めている。南アフリカ雇用労働省は、2023年3月1日に時給25.42ランド(1.34米ドル)の新しい全国最低賃金を公表し、これは2022年の23.19ランド(1.23米ドル)から10%の増加となる。これに対して、一部の生産者は新しい品種の植栽や接ぎ木を控えることで人件費を抑制している。

図11 南アフリカの食用ブドウの栽培面積



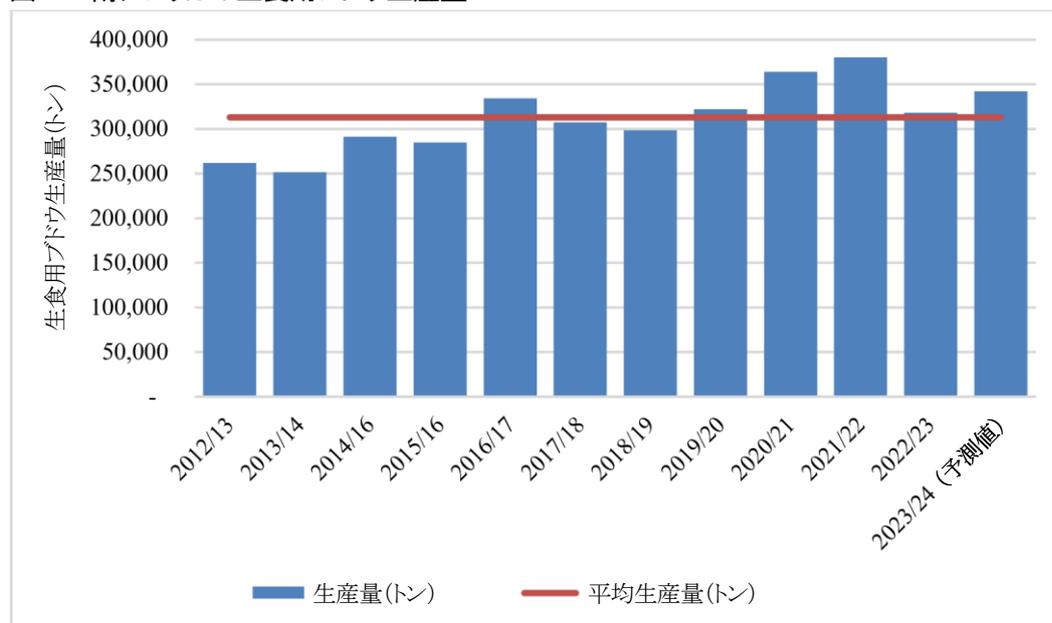
出典: 南アフリカ食用ブドウ協会(SATGI)及び当事務所推計

2022/23年度の栽培面積は、2021/22年度の2万379ヘクタールから1万9,788ヘクタールへ3%減少した。オレンジ川流域を除くすべての生食用ブドウ産地で栽培面積が減少し、北部では最大の減少を記録した。

生産

当事務所は、南アフリカの2023/24年度の生食用ブドウ生産量について、平年並みの気象条件、過去5年間の平均収量、及び新品種の出荷の開始を踏まえ、2022/23年度の31万8千トンに比べて8%増となる34万2千トンと予測する。2022/23年度の生食用ブドウの生産量は、2021/22年度に過去最高の38万トン記録した後、16%減の31万8千トンとなった(図12)。これは、栽培面積のわずかな減少と悪天候によるものである。北ケープ州のオレンジ川流域は2023年1月に熱波に見舞われ、ヘックス川とベルク川の流域では12月と1月に平均以上の降雨量を記録した。これらの気象条件により、すべての産地で生産量が減少し、生食用ブドウは極端な気温と過度の降雨に弱いため特に晩生品種の生産量が減少した。生食用ブドウの栽培面積は減少しているが、2021/22年度には収量の多い新品種の出荷が本格化し、シーズン中の天候に恵まれたことで、記録的な収穫量を達成した。

図12 南アフリカの生食用ブドウ生産量



出典:USDA, SATGI, Post forecast

輸出

当事務所は、南アフリカの2023/24年度の生食用ブドウの輸出量を、生産量の回復と港湾業務の改善により、2022/23年度の28万5千トンに比べて9%増となる31万トンと予測する。2022/23年度には、南アフリカは28万5千トンの生食用ブドウを輸出し、これは生産量の減少と港湾での課題により、2021/22年度の33万5,750トンから15%の減少であった。ケープタウン港の非効率性、輸送の遅延、及びリーファーコンテナ料金の高騰が業界を大きく圧迫している。南アフリカの生食用ブドウ輸出量の約95%はケープタウン港を経由し、残りはダーバン港を経由する。生食用ブドウは傷みやすく、港でのスムーズな通過に依存している。生食用ブドウの輸出シーズンのピークであった2023年2月に、ケープタウン港は強風のために約240時間閉鎖され、この非常に傷みやすい商品の取り扱いに大きな支障をきたした。2022/23年度の主要輸出品種は、クリムゾンシードレス(16%)、プライム(8%)、スイートグローブ(8%)、スイートセレブレーション(7%)及びオータムクリスプ(7%)で、生産量全体の傾向をほぼ反映している。2021/22年度の生食用ブドウの輸出量は、過去最高の生産量を反映して4%増加し、これも過去最高水準の33万5,750トンに達した(表8)。

ヨーロッパは南アフリカ産生食用ブドウの主要な輸出市場であり、2022/23年度には生食用ブドウの総輸出量の約75%を占めている。オランダは、南アフリカ産生食用ブドウの単一国として最大の輸出市場であり、総輸出量の40%以上を占めている。南アフリカは、他の南半球の競合国よりもヨーロッパまでの輸送距離が短いことと、EU及び英国との貿易協定を有することの恩恵を受けている。アジア、中東、アフリカへの輸出も大きな成長の可能性があり、南アフリカの生食用ブドウ産業の関心を集めている。米国への輸出量は過去5年間で大幅に増加したが、その量は依然として5千トン未満であり、生食用ブドウの総輸出量の2%未満を占めるに過ぎない。米国に輸出される主な品種は、オータムクリスプ、レッドシードレス、アドラシードレス等である。

表8 南アフリカの生食用ぶどう輸出量(トン)

輸出先	2021/22	2022/23
欧州連合	179,554	154,406
英国	75,027	57,557
中東諸国	17,945	20,320
カナダ	20,152	14,441
東南アジア諸国	15,839	14,169
中国及び香港	11,290	8,153
アフリカ諸国	5,957	4,171
ロシア	3,452	3,728
米国	3,719	3,460
インド洋の島国	1,690	1,407
その他	1,126	1,445
合計	335,750	283,255

出典: SATGI

表11 南アフリカの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生食用、生鮮) 販売年度の始まり	2021/2022		2022/2023		2023/2024	
	2021年10月		2022年10月		2023年10月	
南アフリカ	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	20,379	20,379	20,270	19,788	0	19,500
収穫面積(ヘクタール)	18,500	18,500	18,250	18,000	0	18,000
商業的生産量(トン)	376,000	380,000	340,000	318,000	0	342,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	376,000	380,000	340,000	318,000	0	342,000
輸入量(トン)	9,700	9,712	8,000	11,150	0	10,000
総供給量(トン)	385,700	389,712	348,000	329,150	0	352,000
生鮮国内消費量(トン)	49,900	53,962	48,000	44,150	0	42,000
輸出量(トン)	335,800	335,750	300,000	285,000	0	310,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	385,700	389,712	348,000	329,150	0	352,000